

# 伊那谷を土砂災害から守るため、さまざまな砂防事業を展開しています。

土砂の流出や氾濫を防ぐために取り組んでいます。

## ■ 砂防事業

天竜川で国による砂防事業がスタートしたのは昭和12年。現在では小渋川、三峰川、遠山川、新宮川、太田切川、中田切川、与田切川、片桐松川の8つの直轄砂防流域において、山の斜面の保全をはかりつつ、人々の生命と財産を守るため、砂防施設の整備に取り組んでいます。



与田切川での土石流  
天竜川の支川上流域では、土石流が頻繁に発生しています。

大きな被害を与える土石流をくい止めます。

## ■ 砂防えん堤

砂防えん堤とは、洪水時に上流から流れてくる土砂をくい止め、その後少しずつ下流に流す施設のことで、目的に応じて、さまざまな種類のえん堤が活躍しています。

### 砂防えん堤のはたらき



### ■ 砂防えん堤の種類



**セルダム**  
(与田切崩壊セル群ダム: 与田切川)  
銅製の筒の中に現地の石を詰めて造られたえん堤。小規模の土石流を通過させ巨石や流木だけをせき止めるもので、工期の大幅な短縮と低コストを可能にしました。



**アーチ式砂防えん堤**  
(上蔵砂防えん堤: 小渋川)  
昭和29年に完成した砂防えん堤。土砂による摩擦を防ぐため、表面に切石を張りつけており、今では石積み周辺の緑にとけこんでいます。



**ネット付スリット型砂防えん堤**  
(尾勝谷第3砂防えん堤: 三峰川水系)  
洪水時には土石流や流木をせき止め、平常時には徐々に土砂を流します。ネットは流木捕捉に速し維持管理も容易で、低コストを可能にしました。



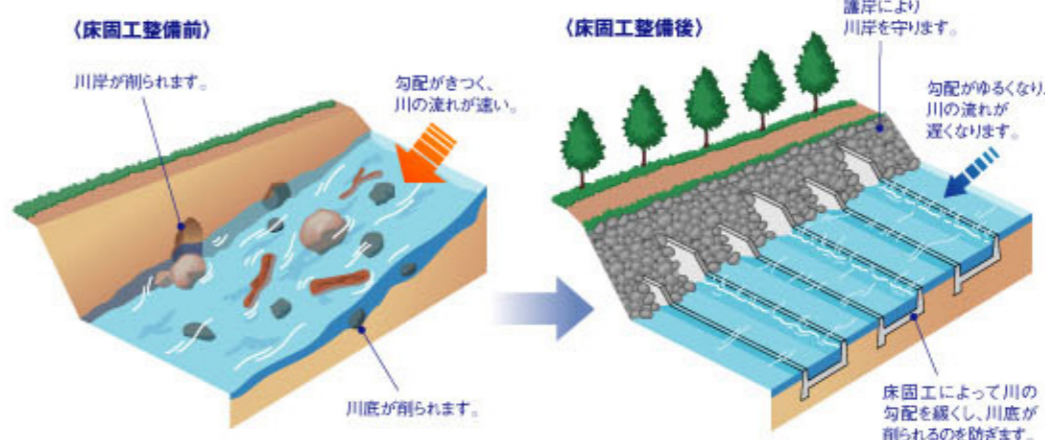
南アルプス荒川大崩壊地  
(小渋川上流)

水が流れるスピードを遅くし、川の流れを安定させます。

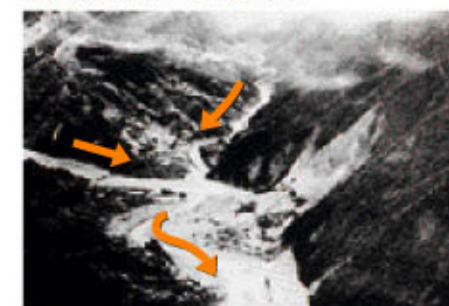
## ■ 床固工

川の勾配が急なところでは、増水時に水の力により堤防や川底が削られます。また、削られた土砂は下流に流され勾配がゆるいところに堆積して川の水があふれる原因になります。このようなことを防ぐために、勾配が急な川底を階段のようにして、水が流れるスピードを遅くします。

### 床固工のはたらき



### ■ 大河原床固工群 (大鹿村)



大河原地区は三六災でも大きな被害が出ました。



現在では、床固工群の整備が進み、災害に対する安全性が向上しています。